

【準々決勝】

習志野高校 VS 暁星国際高校

お互い1-4-4-2のシステム。2トップの連動した動き出しでチャンスを作り出す。前半15分過ぎから徐々に暁星国際がボールを握り始めるが習志野のセンターバック⑤と⑧の壁を越えられない。

試合は硬直した状態が続くが35分に試合が動く。暁星のクリアミスを見逃さなかった⑨がすかさず反応しシュート。暁星国際 GK 甲斐がシュートストップするも詰めていた⑥が左足でプッシュし、落ち着いて決めた。

後半残り15分、暁星国際は3バックにし、⑨と⑥をターゲットにし、パワープレーを試みるが、習志野高校のペナルティエリア付近の固いブロックを崩せずそのまま試合終了。

終始お互いしっかりと守り、少ない人数でチャンスを生かそうとする展開となった。

(千葉県立沼南高柳高校 尾張 堯映)

流経大柏高校 VS 翔凜高校

流経大柏は1-4-4-2、翔凜は1-4-1-4-1のシステム。立ち上がりから流経大柏の前線からのプレスで翔凜陣地へ攻め込む。セカンドボールを拾った後、前向きな選手に預け積極的な仕掛けからセットプレーを獲得しチャンスを作る。

流経大柏が押し込む展開が続く、前半17分に⑥のクロスから⑩のヘディングシュートで先制。翔凜は33分、⑱が右サイド裏のスペースへ抜け出し、クロスを上げ⑩のシュートでワンチャンスをものにし同点に追い付く。

流経大柏は後半10分、⑨・⑳を同時に投入しシステムを1-4-1-4-1に変更。その直後に⑨が左サイドをドリブル突破しクロスから⑱がダイレクトで右足を振りぬき2-1とする。30分⑳がスルーパスに抜け出し GK との1対1を冷静にファーサイドへ決めて追加点。一瞬のスキを突かれ追い付かれた流経大柏だが、その後は終始主導権を握り、3-1で試合終了した。

(千葉県立船橋北高校 高橋 剛)

#### 専修大松戸高校 VS 市立船橋高校

専修大松戸は1-4-2-3-1の陣形。攻撃は⑦中村を中心に攻撃を組み立て、⑩齊藤⑨都田を起点にボールを集めサイドの⑪酒井⑭吉川が幅を作りサイドのスペースを仕掛ける。ドリブル、ショートパスを交えながら多彩な攻撃バリエーションで市立船橋の守備を掻い潜る。守備はDFラインを中心に粘り強く対応する。対する市立船橋は守備時1-4-3-3の陣形をとり、攻撃時は1-3-6-1の陣形。攻撃は⑤岡井からのロングボールやボランチがDFラインに落ちてSBを高い位置に上げ⑪佐藤⑨西堂を起点に早い攻撃とビルドアップからのサイド攻撃を織り交ぜながらゴールへ迫る。セットプレーも脅威である。守備は中のスペースを埋めるポジションからサイドに誘導し組織的に守る。お互いに立ち上がり前線からプレスを掛けボールを奪いに行き、攻守の切り替えも早い。後半に入り、専修大松戸が徐々にペースを掴み同点に追いつきその後も流れを掴んだが、市立船橋の運動量は落ちず粘り強い守備で決定機を作るまでに至らない。逆に市立船橋はセットプレーから追加点を奪い、その後も⑬郡司⑦大関を投入し攻撃のリズムを変え後半終盤に追加点を奪った市立船橋が準決勝に駒を進めた。

(千葉県立天羽高等学校 佐藤 誓哉)

#### 日体大柏高校 VS 八千代高校

日体大柏は1-3-4-1-2、八千代は1-4-4-1-1のシステムで試合開始。立ち上がりお互いシンプルに前線にロングフィードを供給し前線からプレスを掛け合う落ち着かない中でセットプレーのこぼれ球を⑫石田がダイレクトで豪快にゴールを奪う。徐々にお互い落ち着いてくると、八千代は奪ったボールをスペースからボールを運びFWの飛び出しと楔からのサイド攻撃を仕掛ける。日体大柏は八千代DFが間延びしたのを観て、ビルドアップから⑩芥川⑦井関が関わり、⑭小林⑯青山の動き出しから出来たスペースに④佐藤が飛び込むなど、両チームの良さが少しずつ出てくる。後半に入り、お互い自分達のペースに持ち込もうとするが、お互い崩し切れずロングフィードが増え、落ち着かないゲームになってしまう。八千代は1点リードしているせいか、サイドバックのオーバーラップを少なくし、クリアボールを⑦青木⑩吉田⑫石田の個でシンプルに仕掛ける。日体大柏はこれまで手堅く勝ちに拘り試合を進めてきたが、負けている状況でも3バックと両サイドバック、ボランチが積極的に高い位置を取れず、少ない枚数で攻撃を仕掛けるいつもの形からなかなか変化をつけられず、粘り強い八千代の守備を崩すことが出来なかった。八千代は最後まで徹底して粘り強くゴール前を固め逃げ切り、準決勝に駒を進めた。

(千葉敬愛高等学校 井上 健太郎)

## 【準決勝】

### 習志野高校 VS 流通経済大学附属柏高校

習志野は1-4-4-2、流経大柏は守備時には⑫藤井をアンカーに置く1-4-1-4-1、攻撃時には⑩熊澤をトップ下に置く1-4-4-1-1のシステムとなる。立ち上がりはお互いにリスクを最小限にするため、ロングボールをFWに供給し、そのセカンドボールを拾って二時攻撃につなげようとする展開。ペースを握ったのは流経大柏。拾ったセカンドボールをサイドに展開し⑬小山のドリブルで相手陣内に侵入し習志野ゴールを脅かそうとするが、習志野DFもブロックをつくり、シュートまでは持ち込ませない。対する習志野は奪ったボールを素早く相手DFの裏に供給し⑨打林、⑩中澤を走らせるがなかなかチャンスをつくり出すことができない。前半は相手の出方を窺いながら試合が進む膠着状態で終了した。

後半に入るとHTで選手を3人入れ替えた流経大柏ペースで試合が進む。前半のサイド攻撃に加えて、カットインからバイタルエリアでの崩しを試みるが、習志野⑤関、⑧松戸の両CBが粘り強く対応し決定的なシュートを打たせない。対する習志野も交代出場の⑫麻生、⑱櫻庭の突破でチャンスを作り出すがラストパスの精度に欠き、シュートを打つことができない。流れの中でなかなか決定機を作ることができなかった両チームだが、延長後半にCKから得点を奪った流経大柏が決勝に駒を進めた。

(千葉県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)

### 八千代高校 VS 市立船橋高校

八千代は1-4-4-2の中盤をダブルボランチにし、市立船橋は1-3-5-2の中盤にアンカーを1枚置く陣形でスタート。守備ではお互いに立ち上がりからブロックを形成し、危険なスペースをしっかりと埋めてバランスを崩さない。攻撃では市立船橋は3バックとボランチ⑦大関を起点にビルドアップし、ロングボールとショートパスを織り交ぜサイドチェンジを多用しながらピッチを幅広く使い攻撃の糸口を掴もうとする。徐々に八千代のギャップ間でボールを受ける回数が増え、FW⑪佐藤⑭城定のコンビネーションから中央突破を狙いゴールへ迫る。一方、八千代はDFラインからロングパスを多用しながらFWや左SH⑩吉田を起点に突破を試みる。攻撃時に両SHが高い位置を取るのに対し市立船橋は、守備時にSHを下げ1-5-4-1の陣形を取り対応。また、中盤はスペースを埋めるポジションからサイドに誘導し組織的に守る。お互いに攻守の切り替えは早く球際も激しい。

後半に入り、八千代は守備時に1-4-5-1の陣形に変え、中盤のスペースを埋めてボールを入れさせない。奪う回数も徐々に増え、ショートカウンターからチャンスを掴む。そのままペースを掴みたいところだが、前線でボールが収まらず攻撃の起点をなかなか作れない。市立船橋は高い集中力と徹底したリスク管理で決定機を作らせず対応。攻撃ではボールを握っている時間が多いが、ボールを効果的な位置に運べず崩す形まで行けない時間が続く。その状況の中、選手交代でスピードがありシュート精度の高いMF⑬郡司を投入し攻撃のリズムを変える。八千代は粘り強い守備で体を張っていたが、一瞬の隙をつき終了間際に奪った得点を守りきった市立船橋が決勝に駒を進めた。

(千葉県立天羽高等学校 佐藤 誓哉)

## 【決勝】

### 流通経済大学付属柏 VS 市立船橋

6年連続となったこのカードでの決勝戦。1万2千人を超える観客を集め、両校応援団も盛り上がり、最高の雰囲気の中で試合が行われた。

流経柏は1-4-4-2のシステム。対する市立船橋は攻撃時には1-3-5-2、守備時には両サイドをディフェンスラインに落として1-5-3-2のシステムとなる。キックオフ直後から激しいボールの奪い合いとなり、流経柏は相手ディフェンスの背後にボールを供給し、FWを走らせ、跳ね返されたボールに対しては全体をコンパクトにしてセカンドボールを積極的に拾いに行く。また、相手がボールを保持したときには積極的にプレッシャーをかけ、相手の自由を奪いに行く。市立船橋は、3バックでビルドアップをし、2トップの⑨西堂、⑪佐藤の連動したオフザボールの動き出しにあわせてボールを供給し、相手の背後やくさびでボールを受けさせる。CKで流経柏が先制したあとは、中盤の⑩井上や⑦大関にボールが入る回数が増え、細かいパスワークから突破を試みるが、流経柏も⑫藤井、⑬八木が素早くプレッシャーをかけてシュートまでは持ち込ませない。

後半に入り立ち上がりこそ流経柏がペースを握ったが、徐々に市立船橋が相手陣内に進入する回数が増えてくる。しかし、市立船橋の2トップに対しては流経柏両CBの③須永、⑤関川がガッチリとマークをして仕事をさせない。さらに市立船橋は③松尾の突破や⑬郡司のロングスローで相手ゴール前まで迫るが、あと一歩のところまでゴールを割ることができない。逆に市立船橋のミスを見逃さなかった流経柏がきっちり追加点を決め被シュートを2本に抑え、2年連続の優勝をものにした。

(千葉県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)